



## 学習評価で大切にしたいこと

### 指導事項の明確化

運動領域は、教科書がないため、各学年の指導内容及び指導方法の在り方について、児童の体力等を踏まえ、指導内容を明確にします。その上で、評価の観点に応じた評価方法を整理します。

### 評価の方法と時期を明確化

単元で重点的に指導し評価する事項を明確化するとともに、いつ、何を、どのように評価するかを計画します。体育科では、知識を理解した後、試行錯誤しながら技能が高まります。技能が十分高まるだけの期間を要することに留意して、記録に残す評価を設けることが大切です。

## 評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで、評価の基本的な枠組みを捉えることができます。体育科では、運動領域と保健領域があるため、その趣旨についてもそれぞれの内容を示しており、下記の「また、」以降が保健領域の趣旨になります。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けます。

| 観点 | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----|---|---|---|
| 趣旨 | 各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 | 自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切に、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。 |

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、〔運動領域〕は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、以下のⅠ～Ⅴに該当する内容で分けて、評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。〔保健領域〕は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、「主体的に学習に取り組む態度」については、各学年の目標の(3)「また、」以降の記述を基に作成します。

- Ⅰ 愛好的態度 (例 進んで取り組み、積極的に 等)      Ⅱ 公正・協力 (例 きまりを守り、誰とでも仲良く 等)  
Ⅲ 責任・参画 (例 場の準備、片付けを一緒に 等)      Ⅳ 共生 (例 考えを認めたり 等)  
Ⅴ 健康・安全 (例 場の安全に気を付けたり、安全に気を配ったり 等)

〔運動領域〕 第1学年及び第2学年 「B 器械・器具を使つての運動遊び」



### 単元の 評価規準例

- ①腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうと(Ⅰ)している。  
②順番やきまりを守り、友達の考えを受け入れ(Ⅳ)、誰とでも仲よく(Ⅱ)運動遊びをしようとしている。  
③器械・器具や場の準備、片付けを友達と一緒に(Ⅲ)しようとしている。  
④場の安全に気を付けている。(Ⅴ)

## 3観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

「知識」は、運動の行い方をより詳しく言ったり書き出したりしている姿や実際に行っている姿等で見取り、「技能」は、運動をよりよくできる姿等で見取ることで、分けて評価します。

### 思考・判断・表現

「思考・判断」は、工夫しようとしていることが言動として表出される姿等で見取り、「表現」は、友達や教師に伝えたり、学習カードに書き出したりする姿等で見取ることで、分けて評価します。

### 主体的に学習に 取り組む態度

体育科では、運動に意欲的でない児童への配慮の必要性を教師と児童が共通理解し、その考えに基づいた行動ができるかを、評価の対象と捉える視点が必要です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要する状況と判断される児童への支援に生かします。例えば、絵図や写真でヒントを示す等、個に応じた指導を工夫することが大切です。

2 3観点をバランスよく評価

体育科では、3観点を毎時間評価するわけではなく、単元全体を通して3観点を評価します。その際、技を繰り返す、友達と作戦を立てる等、中心となる児童の学習活動とつなげて評価の観点を位置付けることが大切です。

(例) 第1学年及び第2学年 「B 器械・器具を使つての運動遊び」の授業 ◇単元名 器械・器具を使つての運動遊び  
◇ 単元の評価規準

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|--|--|---|
| ①マットを使った運動遊びの行い方について話したり、実際に動いてみたりしている。<br>②マットに背中や腹などをつけて揺れたりいろいろな方向に転がって遊ぶことができる。<br>③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせてブリッジしたりして遊ぶことができる。 | ①複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。<br>②腕で支えながら移動したり、逆さまになつたりする動きを選んでいる。<br>③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に擬態語や擬音語で伝えたり書き出したりしている。 | ①腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。<br>②順番やきまりを守り、友達の考えを受け入れ、誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。<br>③器械・器具や場の準備、片付けを友達と一緒にしようとしている。<br>④場の安全に気を付けている。 |

◇ 指導と評価の計画 (全6時間)

| 時 | 主な学習活動  | 重点 | 記録 | 評価規準・評価方法   | 指導に生かす評価  |
|---|---|----|----|---|---|
| 1 | ・リインテーン 運動遊びの紹介   | 主  | 1  | [主④] (観察)<br>・マットのずれを見逃さず整えたり、危険な回り方をしないようにしている。  | <b>指導に生かす評価</b><br>活動中、安全へ留意している様子が見られない場合は、安全な場づくりや動きの必要性等の絵図や動画を示し、個別に支援します。<br><br><b>記録に残す評価</b><br>コースの特徴の理解と、転がる動きの習得が進んだ上で、観察と学習カードで評価するよう留意します。 |
| 2 | ・前転がり、後ろ転がり、だるま転がり<br>・転がり方を組み合わせる                        | 知  |    |   |   |
| 3 | ・腕支持での川跳び<br>・腕支持で平均台跳び<br>・腕立て横跳び越し                      | 思  | ○  | [知識・技能③] (観察)<br>・跳び箱を使つたり、肋木を使つたりして、遊ぶことができる。<br>・仰向けや倒立からのブリッジを試し、遊ぶことができる。                       |   |
| 4 | ・跳び箱を使った運動遊び<br>・肋木を使った運動遊び<br>・さかさまからのブリッジ               | 技  |    |   |   |
| 5 | ・コースを設定しグループでいろいろな運動遊びで楽しむ<br>・グループ同士で紹介し合つて楽しむ           | 思  | ○  | <b>本時</b> [思・判・表①] (観察、学習カード)<br>・複数のコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。<br>・自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び、遊んでいる。 |   |
| 6 | ・他のグループが行つた運動遊びを楽しむ<br>・もっと楽しくなるよう運動遊びを工夫し、動きのバリエーションを楽しむ | 技  |    |   |   |

\* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

自分のしたい転がり方とコースの特徴を踏まえて、コースを選んだ理由を話したり書いたりしている。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

単元の目標に到達した児童は、どんな発言や様子が見取れる姿なのか、活動の内容や場面と関連付けながら考えておくことが大切です。学習カードの記述へ評価を返す際、その姿を思い浮かべてコメントを書くことで、教師と生徒が評価規準を共有する機会にすることができます。



## 学習評価で大切にしたいこと

### 技能の向上を意識した指導と評価

第1・2学年では、各単元の初めに小学校からの学習内容の系統性を考えて、生徒の実態を踏まえ、指導事項を配置します。また、技能の高まりに要する時間も考慮して、単元計画に評価場面を位置付けます。

### 指導事項間の関連を図る工夫

例えば、パスやシュート等、技能のポイントを知識として学ぶ機会を設け、練習場を設定し実際に練習した上で、その評価を行います。練習を通して得た気づきを踏まえて、話し合いの場面で他者へ伝えている内容を基に評価できるよう、場面設定することが大切です。

## 評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。中学校保健体育科では体育分野と保健分野があるため、下記の「また、」以降を保健分野の趣旨として示しています。

| 観点 | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|----|---|---|--|
| 趣旨 | 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 | 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 |

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、〔体育分野〕は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、以下のⅠ～Ⅴに該当する内容で分けて、評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。〔保健分野〕は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないため、「主体的に学習に取り組む態度」については、保健分野の目標の(3)を参考にします。

- Ⅰ 自主的、積極的な態度 (例 自主的に、積極的に 等)    Ⅱ 公正、協力 (例 ルールやマナーを、フェアな 等)  
Ⅲ 責任、参画 (例 場の準備、片付けを、一緒に 等)    Ⅳ 共生 (例 一人一人に応じた、仲間の学習を援助 等)  
Ⅴ 健康・安全 (例 健康・安全に気を付ける 等)

〔体育分野〕第1学年 「E 球技(ゴール型) バスケットボール」

- 単元の  
評価規準例
- ①学習に積極的に(Ⅰ)取り組もうとしている。
  - ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助(Ⅳ)しようとしている。
  - ③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったり(Ⅱ)しようとしている。
  - ④作戦等についての話し合いに参加(Ⅲ)しようとしている。
  - ⑤健康・安全に留意(Ⅴ)している。

## 3観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

体育分野では、「知識」と「技能」の評価規準に分けて設定します。保健分野では、ストレスへの対処と応急手当で技能を含みますが、「知識」と「技能」を分けることなく相対的に捉えて指導し評価します。

### 思考・判断・表現

「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定します。「思考・判断」の評価は「知識」の評価と混同しないように、なぜそう考えたのかを問う等、思考のプロセスを評価します。

### 主体的に学習に取り組む態度

課題解決に向けての話し合いの姿や既習技を活用し学習に進んで取り組もうとしている姿や単元のゴールへ向けて自分でよりよいやり方を考え、工夫している姿等の意思的な側面を評価します。

## 単元・本時における学習評価の進め方

### 単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

#### 1 指導に生かす評価

生徒の学習状況を見取り、支援に生かす評価です。例えば、自他の技と完成技を動画で比較することで、生徒は共通点や相違点に気がきます。その上で、個別の支援をします。

#### 2 3観点をバランスよく評価

3観点を毎時間評価するわけではありません。例えば、練習して習得した技能を評価する時間や試合への取り組み方を評価する時間等、学習状況を見取る場面を重点化して評価します。

(例) 第1学年 「E 球技 (ゴール型 バスケットボール)」の授業  
◇ 単元の評価規準

◇ 単元名 球技 (バスケットボール)

| 知識・技能  |   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|--|---|---|---|
| ○知識<br>①バスケットボールには、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出ししたりしている。<br>②バスケットボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 | ○技能<br>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。<br>②得点しやすい空間にいる味方にパスをだすことができる。<br>③パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 | ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。<br>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。<br>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 | ①学習に積極的に取り組もうとしている。<br>②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。<br>③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったりしている。<br>④作戦等についての話し合いに参加しようとしている。<br>⑤健康・安全に留意している。 |

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

| 時  | 主な学習活動                             | 重点    | 記録 | 評価規準・評価方法   | 指導に生かす評価  |
|----|------------------------------------|-------|----|---|---|
| 1  | オリエンテーション ボール慣れゲーム                 | 知     | 1  | [知識①] (観察、学習カード)<br>・ 攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出ししたりしている。     | <b>指導に生かす評価</b><br>学習カードに種目の特性を書き出せていない生徒に対して、絵図や動画を示す等して、特性の理解を支援します。<br><br><b>記録に残す評価</b><br>動きのポイントやつまずきについて、生徒の理解を十分進めた段階で、記述や発言の様子を基に評価します。 |
| 2  | ボール操作<br>ドリブル、パス、シュート等             | 主     |    |   |   |
| 3  |                                    | 技     |    |   |   |
| 4  | 基礎的技術の習得<br>課題解決の練習<br>空間に走り込む等の動き | 主     | ○  | [技能②] (観察)<br>・ フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを出すことができる。                             |   |
| 5  |                                    | 知     | ○  |   |   |
| 6  | 課題の確認と解決の練習<br>簡易ゲーム               | 思     |    | [主②] (観察)<br>・ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。                          |   |
| 7  |                                    | 思     |    |   |   |
| 8  | 簡易ゲームの修正<br>最終リーグ戦Ⅰ                | 技     | ○  |   |   |
| 9  |                                    | 思     | ○  | <b>本時</b> [思・判・表①] (学習カード、観察)<br>・ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 |   |
| 10 | 最終リーグ戦Ⅱ<br>単元のまとめ                  | 総括的評価 |    |   |   |

\* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

### 本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

話し合いの場面で、完成技の動画を参考に、仲間の課題や出来映えに対して「ここで~のように動けば」や「もっと仲間と~できれば」等、提示された動きのポイントやつまずきを踏まえて伝えている。

#### Point

具体的な生徒の姿を設定するために

仲間の技について改善箇所を指摘できる等、生徒が自らの気付きを基に他者へ伝える発言や記述を評価します。そのため、目標に到達した姿を教師が具体で例示し、生徒と共有しておくことが大切です。